

# 市議会だより



垂水小学校金管バンド（八坂神社六月灯）

【特集 第2回】  
**垂水市の史跡めぐり**

市制60周年事業の一つとして先月「なんでも鑑定団inたるみず」の収録がありました。垂水史談会のメンバーでもある川崎あさ子さんは、垂水市にも多くの宝物が眠っていると思い、以前から気になっていた川井田家（株さかや）の蔵を現当主の承諾を得て調査しました。その結果、多くの名品や資料が出てきました。まさに垂水市の宝となるものばかりです。今回特別に、その一部を紹介いたします。

## 価値ある掛け軸を大発見

川井田家は、川畑家、宮田家、大迫家と共に、元々伊地知家の家臣だったが、島津家との領地争いで敗れたことを契機に最初は浜平で商人の道に進みました。そして垂水島津家9代当主「貴備（たかとも）」の時代に本町で商売を始めると共に豪商として手腕を発揮し、大政奉還の時にも新政府の農業・産業振興に大きく貢献しました。

当時の大臣クラスの前田正名、品川弥次郎、高崎正風等の方々の定宿とした家柄でもあり、中でも高崎正



川井田家から発見された掛け軸などの名品の数々

風は、明治2年から明治4年まで、薩摩藩の垂水の行政管理をし、垂水学校の創設に尽力した人で、後に新政府に出仕、欧米諸国視察団を歴任し、明治天皇に仕えた人物でもあります。明治20年島津久光が重篤になつた折、東京から見舞いに来た際に垂水学校で講演をしたという資料が図書館には残されています。その時に垂水まで案内した人が、川井田善衛門氏（川井田家の現当主から4代遡る）だったとか。善衛門氏は商人として力を発揮する傍らで掛け軸の収集家でもあったそうです。今回、川井田家の蔵を調査した結果、当時の有名の方々が書いたと思われる掛け軸や資料が数多く発見されました。今後、垂水市の文化財に指定されるのではないかと思います。  
(資料提供者：川崎あさ子)

## 市議会へ行こう

### 平成30年 第3回定例会会期日程（予定）

- ◎ 8月31日（金） 本会議
  - ◎ 9月11日（火） 一般質問
  - ◎ 9月12日（水） 一般質問
  - ◎ 9月13日（木） 産業厚生委員会
  - ◎ 9月14日（金） 総務文教委員会
  - ◎ 9月21日（金） 本会議
- ※本会議は、市役所3階の議会傍聴席にて傍聴できます。
- ※委員会の傍聴は、事前に委員長の許可が必要です。
- ※8月31日、9月21日の本会議は午前10時から、一般質問及び各委員会は午前9時30分からの開会予定です。
- ※日程は変更になる場合がありますので、議会事務局までお問い合わせください。

■垂水市議会事務局  
TEL 3210132（FAX兼用）  
メールアドレス  
t\_gikai@po.city.tarumizu.kagoshima.jp

## 編集後記

「災害は忘れた頃にやってくる」もはやこの言葉が死語となるほど毎年全国各地で甚大な被害が発生し、たくさんの方々々が亡くなっています。その度ごとに国や県、市町村は教訓として対策を講じていますが、異常気象と共に、むしろ被害が拡大しているように感じます。

6月議会以降も大阪北部地震、先月の西日本豪雨災害と、いつ、どこで災害が発生するかわからない現状ではないかと思えます。地震、豪雨災害で被災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともにご遺族の方々にお悔やみ申し上げます。

さて、急激な少子高齢化・人口減少が進む中、将来も住み続け、また故郷に戻ってくるような人材づくり、仕事づくり、コミュニティづくり、住民による地域づくりなどは、喫緊の課題です。

新たな元号の時代に向け、行政と議会が両輪となって、持続可能な地域づくり、垂水づくりに鋭意努力して参ります。市民の皆様のご意見をお寄せください。

## 目次

【平成30年第2回定例会】	
議決事項について.....	2
常任委員会審議結果.....	3
一般質問.....	5
議案等の審議結果.....	12
総務文教委員会視察報告.....	13
編集後記.....	14

発行／垂水市議会  
編集／垂水市議会だより編集委員会  
鹿児島県垂水市上町114番地  
TEL 0994-32-1111 (358)  
メールアドレス  
t\_gikai@po.city.tarumizu.kagoshima.jp



# 地域再生へ向け 事業費も地域も“あつく”

補正予算

平成30年第2回定例会は、6月1日から6月22日まで22日の会期で開かれました。今定例会では、平成30年度各会計補正予算をはじめとして、条例制定や改正、契約、専決処分などの12件の議案が審査されました。

また、上程された陳情2件が審査され、2件とも採択され、意見書を1件可決しました。

補正後の一般会計予算額は、120億9,950万円となりました。主な事業は、環境センターコンベア取替修繕料やプレミアム付商品券発行補助事業等でした。最終本会議では、全会一致で可決されました。

一般質問には、12名の議員が登壇し、執行部に質問を行いました。

(単位：千円)

会計名	補正額	補正後の総額
一般会計	-18,491	12,099,509
後期高齢者医療特別会計	940	220,579
介護保険特別会計	2,916	2,131,896

## 「一般会計」歳出の主なもの

- 垂水市焼酎輸出拡大支援事業 130千円
- 過疎地域等集落支援事業 (新城・牛根地区) 18,520千円
- 環境センター・コンベア取替修繕 8,316千円
- たい肥センター重量シャッター取替修繕 2,800千円
- 林道点検診断保全整備事業 3,150千円
- プレミアム付商品券発行補助事業 (プレミアム率15%) 32,500千円
- 高規格救急自動車・高度救命処置用機材購入契約
- 28年災中洲橋りょう災害関連事業契約

議会の承認が必要な契約について

## 総務文教委員会の 視察調査報告

- 1、調査日 5月16日～5月18日
- 2、調査地 兵庫県篠山市・宍粟市
- 3、調査

### ●篠山市の調査報告 (目的)

交通需要に応じた多面的な対応策をとって地域住民の要望に応える取組み

**(調査の概要)**  
公共交通は、住民の日常生活における重要な移動手段であり、地域経済にとっても、地域社会の形成のためにも不可欠なものです。

ところが、家用自動車普及し、さらに、人口減少等も影響して、公共交通の路線の廃止や減便といったサービスの縮小が起きている。その一方で、移動手段を持たない高齢者の増加、障がい者等の社会参加、さらにエネルギーの



り方など交通環境社会の見直しにより公共交通の重要性が高まってきています。

篠山市では、「誰でも・いつでも・どこでも自由に移動・交通できる」という交通環境社会の実現に取組んでおり、具体的には「公共交通対策協議会」の設置・活動がありました。この設立が何よりも「利用者・住民の立場で協議・解決」していくという行政の基本的な姿勢が示されています。

具体的な取組みとして、代替バスを設定し、需要の低い路線については、タクシーやジャンボタクシーをバスとして運行したりスクールバスへ市民が乗れたりしています。利用者が過疎地域等で激減してくる問題等が発生した時は、対応するために公共交通網の再編へ着手し、各部門から再編へ向けての取組みが行われていることです。

再編策の中でも、困難地域が事業主体となって取組んでいる家用有償旅客運送事業は注目するものでした。

### (まとめと政策提言)

今回の研修での重要な点は、「交通需要に応じた多面的な対応策をとって地域住民の要望に応える取組み」とそれらを議論する「公共交通対策協議会」が随時活動していることでした。

### ●宍粟市の報告書 (目的)

空き家の活用促進対策、特に農地付き空き家への取組みについて学び、垂水市の定住・空き家対策への参考にしたい。

### (調査の概要と背景)

地方で増加する空き家の有効活用と、新規就農希望者や家庭菜園に興味がある人たちの地方移住を促すことを目的として、国土交通省は空き家対策のひとつとして、小規模農地と空き家をセットして売却・貸出する取組みについて地方自治体向けの手引きを作成しました。先進地の中には、兵庫県宍粟市も挙げられています。

さらに大きな背景として、都市部の住民の農山漁村に移住したいという「田園回帰」という意向が潜在的な要望としてあるということです。さらに、現状の移住者が農地と住宅の確保に苦勞としている課題があり、これらの問題は「農地付き空き家」の取組みが大きく貢献していくもので

あり、先進地の取組みからも明らかになっていきます。

そこで、宍粟市の取組みの背景は、「移住希望者から「移住をきっかけに農業したい」との要望や不在地主の増加により遊休農地が増加傾向にあることから、農業政策として位置付けられ取組みが始まっています。農地法との関係で、小規模農地等が課題でありました。それは、農地の権利取得には農業委員会の「許可」が必要になります。

問題解決の手段として「農業委員会の判断」により、これよりも小さい面積を設定することが可能になりました。

### (まとめと政策提言)

今回の視察から検討すべき課題は、空き家対策を中心とした人口減少時代にふさわしい住宅政策として確立することが必要ではないかということです。

宍粟市は、農業政策とセットして住宅を考えています。「地域の土地利用ビジョン」のような全体としての街づくりを展望するような活用策が必要ではないかということです。さらに公民連携も今後の大きな力になるようです。農地付き空き家バンク等の取組みについては、政策提言できるように議会でも深めていきます。

平成30年第2回定例会に提案された件名と結果一覧

番 号	件 名	審議結果
報 告	平成28年度垂水市一般会計歳入歳出決算認定について	
報 告	平成28年度垂水市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	
報 告	平成28年度垂水市交通災害共済特別会計歳入歳出決算認定について	
報 告	第2号 専決処分の承認を求めることについて (平成29年度垂水市一般会計補正予算(第7号))	承認
報 告	第3号 専決処分の承認を求めることについて(垂水市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例)	承認
報 告	第4号 専決処分の承認を求めることについて(垂水市国民健康保険税条例の一部を改正する条例)	承認
報 告	第5号 専決処分の承認を求めることについて(垂水市税条例の一部を改正する条例)	承認
議 案	第45号 垂水市介護保険法に基づく指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に係る基準に関する条例の一部を改正する条例 案	原案可決
議 案	第46号 垂水市子ども医療費助成条例の一部を改正する条例 案	原案可決
議 案	第47号 垂水市固定資産評価員の選任について	同意
議 案	第48号 垂水市固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意
議 案	第49号 高規格救急自動車・高度救命処置用資機材購入契約について	原案可決
議 案	第50号 平成30年度垂水市一般会計補正予算(第1号) 案	原案可決
議 案	第51号 平成30年度垂水市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号) 案	原案可決
議 案	第52号 平成30年度垂水市介護保険特別会計補正予算(第1号) 案	原案可決
議 案	第53号 垂水市税条例の一部を改正する条例 案	原案可決
議 案	第54号 28災中洲橋橋梁災害関連事業(上部工工事)契約について	原案可決
議 案	第55号 平成29年度垂水市水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について	継続審査
議 案	第56号 平成29年度垂水市病院事業会計決算の認定について	継続審査
陳 情	第9号 生産性向上特別措置法に基づく導入促進基本計画の策定及び固定資産税の特例措置について	採 択
陳 情	第10号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請について	採 択
意見書案	第8号 教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消をはかるための、2019年度政府予算に係る意見書採択の要請についての意見書案	原案可決
選 挙	鹿兒島県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙について	

産業厚生委員会

6月14日に産業厚生委員会が開会され、付託された議案と陳情について審議され、原案の通り可決しました。審議の際の主な質問と回答について紹介します。

主な質疑

同一の事業創設

垂水市介護保険法に基づく指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に係る基準に関する条例の一部を改正する条例案

問 高齢者と障がい者が同一の事業所で行うことができる共生型サービスが創設されたが、対象事業所はあるのか。

答 現在のところは無いが、本年から3年間に亘る第7期介護保険事業計画期間中に城山学園が事業を開始する可能性があるという。

一部現物給付へ

垂水市子ども医療費助成条例の一部を改正する条例案

問 今までも乳幼児について、医療機関への支払金額が最終的に精算されているがどのように変わるのか。

答 市民税非課税世帯の乳幼児にかかる医療費を最初から医療機関窓口で支払う必要がなくなるように変わり、その証明書を福祉課窓口での発行を予定している。

31年10月供用開始へ

28年災中洲橋橋りょう災害関連事業(上部工工事)契約について

問 中洲橋は平成31年の10月頃供用

開始を予定しているとのことだが、何故この時期に契約をするのか。  
答 下部工の施工がある程度終了してから上部工の発注を行うのが通常であるが、災害より3年経過した場合の国からの査定は厳しくなることが通常であることから、県からの指導によりこの時期に契約を行うこととした。



中洲橋橋りょう工事説明状況

購入方法を

分かりやすく

問 プレミアム商品券の販売方法についてどのような感想をもっているのか。

答 昨年度はハガキ応募による販売を行い、子育て世帯の方々から好評を得たが、高齢者の方々からは分かりづらい等の意見があったことから、購入方法についての周知徹底を行ったうえでまた取り組んでいきたい。

河川の保護のために

問 河川等の暖竹等の除去で重機借上料を計上しているがこの河川を予定しているのか。

答 地域から要望があった追神川、深港川、飛岡川、塩入川、馬形川を予定している。

修繕費は何故高い

平成30年度一般会計予算補正予算案

問 環境センターのし渣焼却設備の灰出しコンベアの取替修繕費用が8



総務文教委員会

6月15日に総務文教委員会が開会され、付託された議案、陳情及び意見書案について審議され、原案の通り可決しました。審議の際の主な質問と回答について紹介します。

主な質疑

固定資産の減税を

垂水市税条例の一部を改正する条例案

問 改正の目的として、中小企業所有の老朽化が進む設備から生産性の高い設備への更新を後押し、認定を受けた中小企業の設備投資の固定資産税をゼロとすることであるが、何か条件があるのか。

答 水産商工観光課が計画を作成後、事業者が計画書を作成し、国の同意を受けた上で、企業からの計画書が認定された場合、税は減免するという形になる。



牛根に高規格救急車を

高規格救急自動車購入契約について

問 今回購入する救急車の特徴は何か。

答 現在、牛根分遣所に配備している普通救急車に代わる高規格救急車であり、人工呼吸器や自動心臓マッサージ機等が設置されることとなる。



平成30年度一般会計予算補正予算案

リース方式で安心を

問 高速印刷機の機械更新をリース方式で行っているが、購入を行ったほうがトータルで安くなるのではないか。

答 購入よりリースのほうが全体的な支払額が若干高くなるのは当然だが、経費を按分して支払いを行ったほうが予算を立てやすいというところでリース契約というかたちで上程した。

交流で活性化を

問 過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業にて牛根のビワ畑の廃園の手入れを行い子供たちに交流をさせるとのことだったが具体的な施策は。

答 現在、牛根地区にあるビワ畑の廃園に手入れを行い、親子で収穫をしてもらい加工も地元のグループで行うことにより、交流人口の増加と

入場料を抑え、文化に触れる

ビワ畑の廃園を増やさない計画をもっている。

問 宝くじ社会貢献広報事業として文化会館で開催される「岡村孝子&あみんコンサート」での入場料は必要なのか。

答 入場料については、自治総合センターからの事業趣旨として1人2千円とするように指示があった。



体育館工事説明状況

均等割減免で子育て支援



持留 良一 議員

問 サラリーマンなどが加入する社会保険は、子どもの人数が増えても保険料は変わらない。しかし、国民健康保険制度では、世帯内の加入者数に応じて賦課される均等割があるため、子どもの人数に応じて負担することになる。子育て世帯にとっては大変な負担になっている。

答 技術的には可能であり、実施している自治体もある。しかし減免した分は全て保険者の負担となり、他の国保被保険者世帯の保険料が増加することになる。子どもがいる世帯の支援策は、独自の軽減措置ではなく、国等が行う少子化対策の中で検討するのが適当ではないかと考える。しかしながら、そう言っても何も変わらないので、この提案も含めて子育て支援の充実につながる施策に対し、調査研究をして、今後、一定の方向性を打ち出したいと考えている。

安心して子育て。安全に暮らせる地域社会に



問 市民が安心して歩いたりするなど生活していくために路面標示は安全の保障である。これが不備であったりすると市民やドライバーは混乱するし、事故の危険性もある。「問題箇所」の把握はされているのか、錦江町の垂水中央病院前等の要望書の経過と対策はどうなっているか伺う。

答 交通規制のかかる一旦停止や速度表示、横断歩道、追い越し禁止線などは公安委員会の設置及び管理となっている。職員が日常の点検で表示が薄い箇所を把握し実施している。今後さらに問題個所の把握に努め、関係機関とも連携しながら交通対策に努めていく。錦江町の箇所は病院及び薬局については高齢者も多く、安全確保のために早期改修に向けて引き続き要望していく考えである。

～議員の主な活動～

【平成30年5月～8月分】

- 5月22日 桜島火山活動対策協議会総会（鹿児島市役所）
- 5月30日～6月1日 鹿児島県市議会議長会臨時総会及び全国市議会議長会定期総会（東京都）
- 5月31日 大隅総合開発期成会8団体等総会（さつき苑）
- 6月1日 国道整備促進特別委員会
- 6月1日～21日 平成30年垂水市議会第2回定例会
- 6月12日 桜島火山活動対策特別委員会
- 7月3日 大隅地域市町議会議員協議会役員会（鹿屋市議会）
- 7月4日 桜島火山活動対策協議会県要望（県庁）
- 7月12日～13日 常任委員長研修会（鹿児島市）
- 7月18日 国道整備促進特別委員会要望（大隅河川国道事務所）
- 7月23日 公営企業決算特別委員会
- 7月24日 議会だより編集委員会（第1回）
- 7月25日 国道整備促進特別委員会要望（福岡：九州地方整備局）
- 7月26日～27日 鹿児島県市議会議長会総会（南さつま市）
- 7月30日 議会だより編集委員会（第2回）
- 8月2日 市町村政研修会（鹿児島市民文化ホール）
- 8月9日～10日 国道中央陳情予定（東京：国土交通省ほか）





北方 貞明 議員

・一昨年の台風被害の復旧は未だ道半ば

**問** 一昨年の台風16号による流木が今も海岸に残っているが、処理についての対応は。

**答** 昨年は県が海岸漂着物等地域対策推進事業で、牛根地区の流木等の処理を行った。今年度は本市で予算を計上し、事業実施については、関係者と協議のうえ優先度を考慮し県と連携して事業を進める。

・土地開発公社での裁判、和解へ

**問** 土地開発公社と垂水共同店舗と和解に至った経緯と坪単価は幾らで決着したのか。

**答** 第1回口頭弁論が平成28年6月28日に始まり、14回の口頭弁論が開かれて、平成30年2月28日、両者和解を受け入れて締結した。坪単価は7万円の覚書に対し、6万5,000円で決着となった。

・負の公共財産、清掃センター解体に3億円程度の試算

**問** 公共建造物の解体等や普通財産

となった旧中学校の今後の対応と負の財産について

**答** 公共建造物等のうち、今後財政負担が生じるもので、清掃センターが最も大きな懸案事項と捉えている。施設内の有害物質の事前調査の委託料を予算要求している。解体に向けて現地調査等を行った業者からの見積りは施設全体の解体には3億円程度が必要となっている。旧中学校跡地は、地域住民の意向を尊重しつつ活用方針を検討している。この間、企業等による視察もあったが、具体的な実施には至っていない。

・新庁舎は市民へ共通理解されたのか

**問** 新庁舎の説明会では、旧フェリー跡地（C案）ありきで説明がなされた感じだが、各地区説明会場で市長の感想は。また、新庁舎職員数250人の根拠と内容は。

**答** 住民説明会は延べ262人（一般市民96人、市職員等166人）が参加され、市民から計画内容は理解できたとの声があったが、中央地区では、人口・建物規模、安全性、財政問題への質問が中心だった。新庁舎の職員250人の内訳は、特別職3人、正規職員185人、臨時職員62人、根拠として供用開始時点である平成34年度において、現時点と大きく行政需要が変わらないからである。



篠原 静則 議員

・財産の誤った表記登記について

**問** 土地改良事業連合会が受託して実施された圃場整備で、換地後は従前の地番については、登記上、閉鎖されているべきである。そのまま地番が残っている事例や、換地ごと地番が間違っている事例があるようである。現状はどうか。

**答** 1つ目には、従前の土地の地番を消し忘れて、集約した新しい土地と二重に存在している例があるようである。また、2つ目に圃場と道路や水路等の地番が入れ替わって登記されている例もある。その他、登記上問題となっているものが数例ある。

・中間管理事業について

**問** この農地中間管理事業については、名称も条件も様々で、制度は複雑である。聞くところによると、29年度はいくつかの自治体で、その後、引き下げられた差額を独自に補填したというようなこともあるそうである。本市の場合は、補填は無かったわけだが、何かしらの対応は必要で

はないかと感じる。農地中間管理事業を今後も続けられるのであれば、本市の農政に協力してくれる農家を少しでも救うため、今後は単価の下がった部分を市で上乗せするとか、補填をして交付する考えはないか。

**答** 機構集積協力について、市町独自で補填しているところがないか調査を行った。平成29年度については、差額分を補填した自治体が9市町であった。本市としては、現段階でこの差額分を補填することは考えていないが、今後集積状況を見据えながら、また、国、県との動向を注視しながら検討していきたいと考えている。

・建設業の育成について

**問** 復旧も一段落し、今後は発注件数が減っていくと思うが、土木課ではどのような仕事を発注しているのか。

**答** 土木課が行っている事業は、社会資本整備総合交付金事業の補助事業、過疎債や辺地債などの起債事業、各振興会からの要望に対応する単独工事などを主に実施している。

その他の質問事項

- 公職員の人事について
- きれいな街づくりについて

平成30年 第2回定例会

# 一般質問

12議員が登壇!

## 市政を問う

第2回定例会において、12名の議員が一般質問を行いました。



・総合防災訓練について

**問** 総合防災訓練の実施であるが、5月19日に今回は実施訓練だけでなく図上訓練を行ったようだが、どのような内容の訓練であったか聞く。

**答** 図上訓練は平成24年度以降6年ぶりの実施となったが、より実践的な訓練にするため、参加者に対し、想定内容を知らせないブラインド方式を採用して実施をした。情報伝達の方法や対策本部機能・救助隊員の安全確保など、課題も残ったものの、検証の結果をもとに今後の防災対策に反映させ、更なる防災対策の充実強化を図っていききたいと考えている。

・南の拠点工事における安全対策は

**問** 南の拠点整備事業で工事が同時進行で行われ、業者間の調整作業が大変であると想像している。具体的な安全対策の調整はどのようになっているか聞く。

**答** 現在2週間に1回のペースで国

・新庁舎建設について

**問** 新庁舎建設について5月14日から市内6会場7回にわたり基本計画の内容について住民説明会を実施されたが、そこで市民から出された意見や要望について建設を進めるに当たってどのような形で反映しているのか聞く。

**答** 今回の住民説明会でもらった意見についても内容確認を行って、設計ワークショップ開催の際に市民の方々の関心の高い庁舎に必要な機能や設備をはじめ、庁舎規模や安全対策など、ワークショップのテーマとして設定し、効果的に設計に反映できるように努めていきたいと考えている。

その他の質問事項

- 桜島・錦江湾シオパークについて



堀内 貴志 議員

・インバウンド(外国人旅行者)対策について

問 鹿児島市が運営する桜島周遊バス... 外国人も前年比で12%増の71万人を... 鹿児島市の延べ宿泊者数は、調査開始以降初めて800万人を超えた。

答 鹿児島市の延べ宿泊者数は、調査開始以降初めて800万人を超えた。外国人も前年比で12%増の71万人を...

される。受け入れ体制を整備し関係機関と連携を深め、これまで以上に垂水市のPRを展開していく。

・水産業における労働者不足の解消について

問 技能実習制度は、日本の技術の移転と国際的な人材育成に貢献する一方、企業にとっては貴重な労働力の源になっている。本市では既に加工場や農場等の分野でこの制度を利用している。水産業においてもこの制度を利用したい企業があるが、「監理団体の資格取得」で大きな壁がある。市として支援できないか。

答 どうやって働く労働力を確保するのが重要なことである。漁協が外国人技能実習生の受け入れ監理団体の資格取得を行うためにはどのようになり組みや体制づくりを始めなければならぬのか情報が不足している。既に監理団体の資格取得をして実際に技能実習生の受け入れ実績がある漁協や県漁連及び周辺自治体等の情報収集を行い、今後の対応について情報の共有を図っていく。

その他の質問事項 ○「子育て支援バスポート」のサービスの向上と普及促進を



川尻 達志 議員

・適切な予算執行は出来ているのか

問 29年度繰越明許の件数、額共に多いが議会として予算を認めたいという責任もあり、その経緯について聞く。

答 29年度11事業9億円程度の繰越が出ている。繰越明許については、増加しているが、災害など予期しない事由、国の補正予算など歳入確保を行ううえで、やむを得ない事業として予算編成をしたものであり、財政課と関係各課と情報共有を図り適正に事業完了すべく努力していきたい。

問 垂水中央病院、コスモス苑の指定管理を肝付郡医師会と結んだが向こう10年間で本市の人口は激減する。そのことに対する議論がされていないことであるが、医療の高度化や診察機器の高額化が予想される中、一般会計からの繰出すことしか方法がないが、税の公平という観点から問題が多いと考えるがどうか。

答 議員が危惧されているように、これからの10年間は少子高齢化に伴う社会の到来により本市のあり方に影響を及ぼしてくるその認識においては同じであるが、人口の減少を抑え、交流人口の増大を図る施策を講じていきたい。

・錦江湾横断道路は前進しているのか

問 錦江湾横断道路の件であるが、水迫前市長が取り上げて以来20年経つが全く動いていない。肝心の鹿児島市の動きが全くないまま、時が過ぎ今回桜島港の大改修がされ鹿児島市の動きは不透明の中、市長は本気で動かす用意はあるのか聞く。

答 必要性は市民の大半が認めていると思う。鹿児島市の森市長ともいろいろその話はしているが、鹿児島市の状況もある。言えることも言えないこともあり、軽率に発言は出来ない。

・本市における働き方改革等について

問 役所の中で仕事量のバラつきがあるようであり、特に企画政策課において仕事量が格段に多いと指摘をしてきたが、この平準化についてどう考えるか。サービス残業等はないか。

答 企画政策課をはじめとして、庁舎2階が夜遅くまで残業していることは承知している。残業については、その時間を積み上げているものを用意していない。



堀添 國尚 議員

・災害は忘れたくないにやっつける

問 国道から運動公園への進入路を進入しやすくするための改善策についての取組みは、以後どうなったのか。

答 昨年の9月議会では、実施するとなると国道への取付け協議、都市公園の面積変更協議、道路交通法での交差点協議などがある。また、陸上競技場の改修後に通行形態の変化を見極め、改良が必要と判断された時点で関係機関と協議し、検討したいと回答している。その後の交通量については、現在のところ変化はないようである。しかし、幅員も狭く、車両の離合も容易でないことも事実である。また、中央運動公園の改修工事も継続しているため、さらに交通量の把握に努め、改良が必要であると判断した時点で検討する。

・垂水中央バス停の渋滞解消取組は

問 垂水中央バス停の渋滞解消への取組みについて、先の議会で前向きな答弁であったようであるが、進捗状況はどうなっているか。

答 垂水中央バス停の渋滞解消の取組みについては、乗降者が多いときはバスの後方で数台の車両が停車していることはある。高校生の通学時間帯に確認したが、たまたま対向車が少なかったため、3台から5台程度の停車にとどまった。しかし、交通量が多くなれば、更に多くの車両が停車することになる。整備するとすると慢性的な渋滞の発生、渋滞による事故の発生の有無、国土交通省との協議など、難しい面もあるが、交通量の変化を見極めて、検討していかなければと思っている。

・大隅ナンバー実現への取組は

問 大隅ナンバー実現への取組について、その後の取組みは。

答 錦江湾横断道路の早期実現に向けて、官民一体となり、運動に取組む一環として大隅ナンバー実現に取組んだらどうかと提案があった。このことは条件を満たす定義があるが、30年3月で3回目の募集があり、次の募集がいつあるか情報収集に努め、その対応策を考えていく。

その他の質問事項

○市内の美化について ○幹部派出所前の廃屋は市街地の入口でなんとかならないか。

・新庁舎建設計画は市民アンケートを実施すべき



村山 芳秀 議員

問 垂水市の将来人口については、5年前の推計よりさらに落ち込み、12年後には65歳以上が50%を超え、17年後には1万人を割り込み、働き手である15歳から64歳までの人口は3,800人となる。実態を伴わない独自の垂水市人口ビジョンが、新庁舎建設計画には使われている。新たな道の駅への投資、今後の公共施設等の大規模改修や維持費、高齢者増による扶助費増など財源確保の財政見直しなど長期的な財政シミュレーションを示すべきである。

答 多額の事業費がかかることから、毎年地方債に充てる公債費増加と将来負担比率の上昇などが考えられる。総合計画等に基づいた中長期的な財政見通しの策定について今後の検討課題であると認識している。

問 新庁舎の規模根拠の将来人口は2年後の14,374人。今年6月1日の推計人口は14,456人。わずかに82人の違い。昨年実績から今

・地域包括ケアシステムの現況と対策は

問 地域包括ケアセンターが開設されて一年。ケアシステムの構築には人材確保など様々な課題が見えてきていると思うが、現況と対策は。

答 昨年度の相談件数は1,100件程度。このうち認知症182件、介護保険サービス205件、総合相談・住宅改修に401件などとなっている。医療介護に係る人材が不足している。今後介護報酬引上げ、人材不足により撤退する事業所も出てくるのではないかと危惧している。



川畑 三郎 議員

・梅雨、台風時の防災は大丈夫か

問 九州南部地方は平年より5日、昨年より11日早く、5月26日梅雨入りが発表されました。台風5号も発生いたしました。梅雨、台風時期等の防災対策は。

答 過去の災害による危険地域はもちろんのこと、市内全域、全住民に対する迅速かつ確実な情報伝達の為、継続して県総合防災システム並びに垂水市ほつとメール等を有効に活用し、防災ラジオによる割込み放送の訓練も引き続き行います。孤立することが想定される地域の連絡手段としてIP無線機を配備し、緊急事態に備えております。本年3月には、ライフラインの遮断に備え、食料や生活用品の備蓄品を効率的に保管管理を行うため、中央運動公園敷地内に防災倉庫を建設し、継続した備蓄を行うてまいります。

・NHK大河ドラマ「西郷どん」オープニング放映の江ノ島、桜島

問 NHK大河ドラマ「西郷どん」が毎週日曜日午後8時から放映され、全国民がテレビに釘付けされているかと考えます。放映オープニングの終わりには我が垂水の江之島から桜島を望んだ映像が映し出されます。垂水市も「西郷どん」放映を機会として直接NHKを訪問し、PR活動を行ったと聞いています。その結果、NHKから作成に必要なサツマイモや苗の提供依頼もあつたとの事。放映は約半分を過ぎようとしています。オープニングに放映される江之島をもう少しPRするべきではないでしょうか。桜島食堂もある、さくら公園もある、そして教育旅行生も漁協組合に来てエサやり体験もやっております。看板の設置、ポスターの作成も必要ではないでしょうか。

答 今回の場所は映画「ホテル」の撮影地でもあり、そういった意味では漁港ではありませんが、観光的魅力も十分あると考えます。提案いただいたことを、地元の皆さんにもPRするようさっそく検討させていただきます。

その他の質問事項  
○垂水市の認定農家の現状と実態について

問 深港川の砂防工事について、先月21日深港川の連絡会議が行われた。この内容について説明を。

・深港川砂防工事の状況は

答 保険給付から市町村事業で移行したが、事業所で行うサービスについては、保険給付と同等のサービスで移行していることから、大きな混乱も無くスムーズに移行している。総合事業については、既存の介護事業者によるサービスに加え、NPO・民間企業やボランティア等の多様な主体がサービス提供できることになっているが、本市ではまだその仕組みの構築まで至っていない状況で、それが課題となっている。

・介護保険の制度改正に伴い、要支援者のサービスは守れたか

問 介護保険の要支援1・2の訪問介護と通所介護が給付から外され、市町村の総合事業に移された。全国では撤退する事業所が出て、大問題になっている。垂水市の現況と課題について聞く。



森 正勝 議員

答 5月21日に本市、鹿大ほか、7つの機関が出席して開催されました。大隅地域振興局建設部より約3万立方メートルの容量を確保出来る施設が、5月中に完成するとの説明がされた。鹿児島大学地頭菌教授より集水井戸の完成により大規模な山腹崩壊の恐れは低い。小規模な剥離は起こりうるが、砂防ダムで防げるとの見解が出されたことから、深港地区避難基準を廃止し、同会議を解散した。出来るだけ早く深港橋を復旧してもらおうよう要望をします。

・桜島・錦江湾ジオパークへの取組みと経緯を

問 先月7日に桜島・錦江湾ジオパークのエリアを始良市・垂水市まで拡大する事業計画が承認され、垂水市も始良市と共に連携して、来年4月の申請に取組むこととなった。今後の取組みと経緯について聞く。

答 昨年10月、鹿児島ジオパーク推進室より、まずは、桜島・錦江湾ジオパークに飛び石になっているエリアを繋いで取り組んでいくためには、始良力ルデラ周辺部の垂水・始良両市の協力を得てエリアを拡大し、霧島ジオパークとの統合を行い、世界申請に望みたいとの申し出があった。



感王寺 耕造 議員

・南の拠点整備事業の未買収用地についての経緯と今後の交渉は

問 南の拠点整備事業内の市整備工リア（駐車場用地）内に、未だ未買収用地が存在するが、経緯と今後の交渉について聞く。

答 この用地については、職員の熱心さの余り言動に誤解を招いた面もあつたが、双方話し合いの結果、誤解も解消されたところである。私からも相手の方に不快な思いもさせたこともあり、お詫びをしたところである。そのうえで、この土地の時効取得手続を進めてもらい、時効取得手続の終了後、用地交渉に入る予定となっている。売買契約終了後、農地転用手続を行い、その後、この用地を含む新たな開発計画を県に提出することとなる。

・SFSTSへの予防や治療への広報を

問 重症熱性血小板減少症候群（SFSTS）とは、マダニに咬まれて感

染症を発症する2011年に中国で発見された新しい感染症である。症状は、発熱・全身倦怠感・消化器症状・重症患者では意識障害、出血症状もみられ、致死率は高く20%と言われている。日本では、毎年60〜100人前後の方々が発症している。また、近年、犬猫から人への感染も報告されている。SFSTSの広報及び予防法、治療法について、今後の対応について伺う。

答 昨年鹿児島県では、11名の方が発症され、うち4名の方が亡くなっており、致死率は36.4%です。SFSTSに感染しないためには、まず、マダニに咬まれないことの一言に尽きる。マダニの活動が盛んな春から秋にかけては草やぶに不用意に入らない、肌の露出を少なくする服装を整え、作業後は入浴し、マダニに咬まれていないかを確認する。吸血された場合、皮膚科等を受診し、除去してもらう必要がある。医師の状況判断で発症が疑われる場合、保健所に相談することになる。厚労省は県内では鹿児島大学病院、鹿児島市立病院の2医療機関を指定している。

関係各課でSFSTSについての広報等について市民の皆様へ周知していく。



梅木 勇 議員

・山崩れの治山対策は

問 平成28年の台風16号災害復旧は、山崩れも復旧が進められているが、未整備地区の皆さんは梅雨や台風時期となり、たえず気がかりで不安になっている。未整備箇所と要望箇所の対応をお聞かせください。

答 土木課では、6ヶ所が事業採択となり実施し、農林課所管では24ヶ所の事業申請をした。これまで4ヶ所が完成し、市木瀬戸口、花子地区他が30年度完成予定である。下市木の要望箇所については、県の建設部と農林水産部の協議において、先に事業化できる方で実施すると聞いている。中市木地区は地権者の同意が得られたとのことで、早期に事業化できるよう県へ要望したい。



市木馬口地区山崩れと復旧工事の状況

・グラウンドゴルフ専用練習場の設置を

問 市では、交流人口の増加に向けてスポーツ合宿を推進され、健康施策では各種検診、特定検診等が行われ、ポイントが貰える健康ポイント事業が始まり、ポイントはグラウンドゴルフ大会等の参加でも付与されます。スポーツ合宿人口が増え、健康施策ではグラウンドゴルフ人口が増加し、スポーツランドの利用が高まると考えられます。これまでも合宿による利用調整等があり、民間や市外での練習をされる方々があり、他の地区のように垂水地区にも専用練習場の設置はできないか伺います。

答 たるスポの利用者は増えているが現況では40〜50%程の利用であることから、スポーツ合宿やグラウンドゴルフ等の利用者がもっと増え、敷地が足りないあるいはそれに近づく状況になることが大事であり、その環境が整ったら前向きに建設したいと思うが、今は見極めていく状況とご理解いただきたい。

その他の質問事項  
○空き家バンクに農地付き空き家を